

現行設備で利用できるバイオマス固形燃料で GHG 排出量削減

脱炭素化への動きと懸念されるリスク

2050 年カーボンニュートラル宣言により、国内企業は GHG 排出量削減への取り組みを求められ、GX 推進法の GX-ETS 対象企業は **Scope1** の削減を強く求められます。

GHG 排出削減目標を満たせない場合、次のようなリスクが懸念されます。

経済的影響

- 排出枠購入や課徴金による追加コスト
- エネルギー価格・炭素価格の上昇による事業負担の増加

企業価値への影響

- 環境評価・社会的信用の低下
- 補助金・融資への影響
- サプライチェーンにおける競争力低下や取引機会の逸失

こんなお困りを抱えていませんか？

- 石炭コークス使用による GHG 排出量（Scope1）が多い
- GHG 排出量削減に取り組みたいが、新規の設備投資が困難
- 自社に適したバイオマス固形燃料を探している

DOWA のバイオマス固形燃料活用による解決策

- バイオマス原料を使った燃料となるため、GHG 排出量（Scope1）の削減に寄与
- 既存設備が活用できるため、低コストですぐに脱炭素化へ取り組める
- 用途に応じたバイオマス固形燃料を提案できる
- 将来の GX-ETS などの脱炭素規制強化の備えとなる

